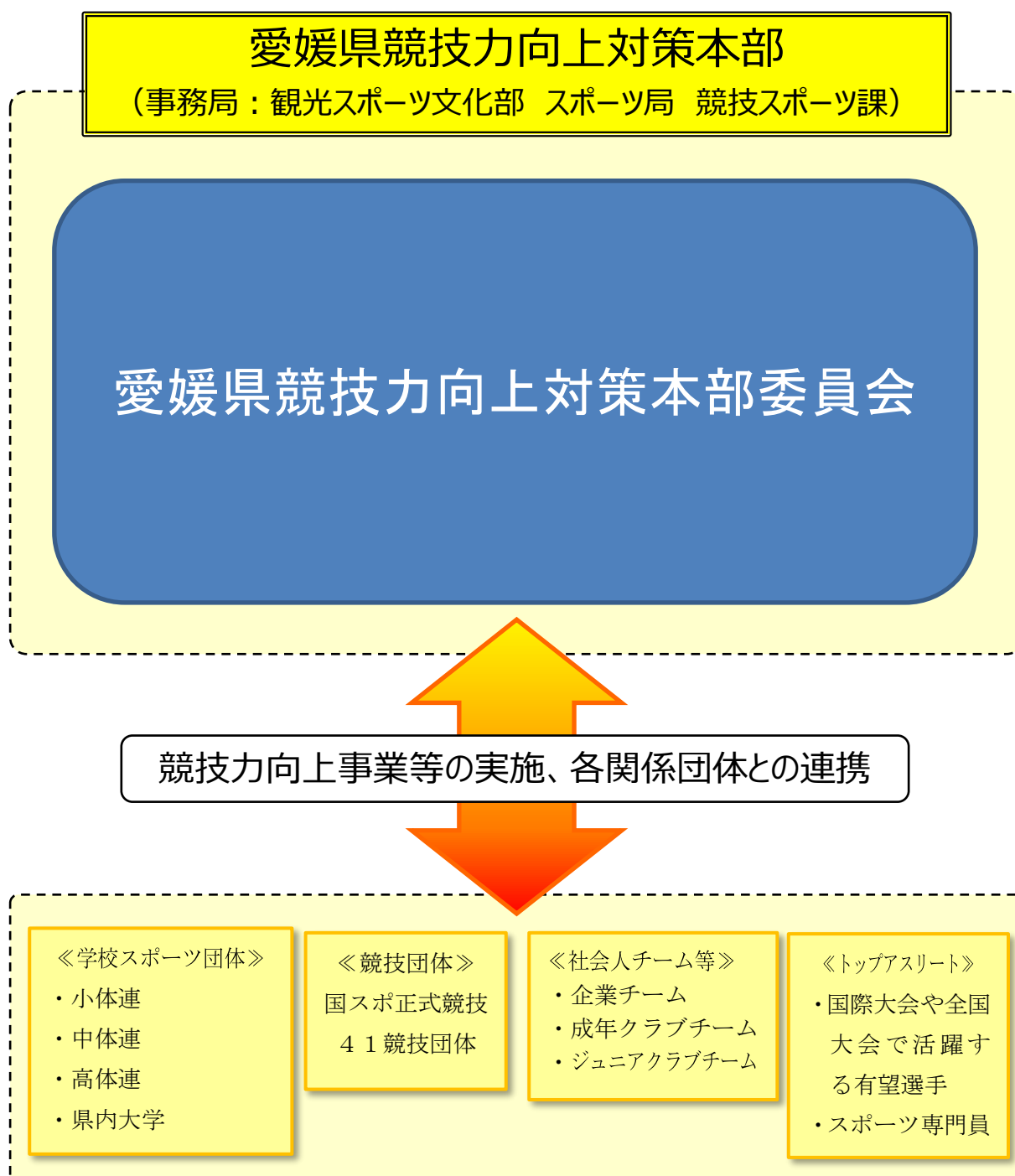


第4章 基本計画の推進体制

1 推進体制の枠組み

愛媛県競技力向上対策本部は、この基本計画に基づき、本県の競技力向上対策を計画的かつ戦略的に推進するため、県、県・市町教育委員会、県スポーツ協会、競技団体、学校スポーツ団体、大学、民間企業、地域クラブチームなどと緊密に連携・協力を図り、一体となって競技力向上対策に取り組むこととします。



2 競技団体の計画期間（2024～2028年度）の取組み《目標》

No.1 一般財団法人愛媛陸上競技協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年種別は全国上位のスポーツ専門員の活躍により安定した得点が期待できるものの、少年種別は男女とも計画的な強化が必要です。
- ・指導者の世代交代が進む中、経験不足の若い世代に対し、資質向上のための機会を提供する必要があります。
- ・ジュニア世代への普及・育成の機会が少なく、強化事業への連携が不足しているため、小・中学生のジュニア世代から人材を発掘し、適性の高い選手を育成する必要があります。

(2) 今後の対策

- ・少年種別の上位選手を特別強化・強化選手に指定し、強化事業により競技力向上を図るとともに、特別強化選手は全国有数の強豪校との合同練習の実施や優秀なコーチからの指導機会の充実に努めます。
- ・指導者講習会や競技専属アドバイザー・コーチ事業等を活用し、今後、強化の中心となる若手指導者の資質向上に努めるとともに、県内強化練習に併せて、伝達講習会を実施し、県内指導者に広く周知できるように努めます。
- ・小・中学生を対象に、記録会と併せて走り方教室を行い、参加者が競技の楽しさや記録が伸びる喜びを感じることができるよう体験教室を行います。

No.2 一般社団法人愛媛県水泳連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・少年種別の強化が急務であり、種別の垣根を越えて、小学生から高校生まで一貫した指導を行っていく必要があります。
- ・国スポへの出場や入賞に向けた選手のモチベーションを高めていく必要があります。
- ・指導者が不足しており、第一線で強化を進めるスタッフの育成を図る必要があります。

(2) 今後の対策

- ・中体連や高体連、社会体育と、より一層連携を図り、選手・指導者が一体となって、充実した強化事業の展開することにより少年種別の強化を図ります。
- ・成年選手からジュニア選手に対し、県代表として戦える魅力を伝え、チーム愛媛として一体感の醸成に努めます。
- ・充実した指導体制を確保するため、水泳部のある学校へ専門性の高い教員配置を関係部署へ強く要望していくほか、後任の指導者育成にも取り組みます。

No.3 一般社団法人愛媛県サッカー協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・えひめ国体以来、複数種別の入賞がなく、全国レベルの強化が必要です。
- ・国スポ出場のための監督やコーチが不足していることから、資格を有した指導者の養成・確保が必要です。
- ・高校進学を機に有望選手が県外流出していることから、小・中・高まで一貫指導できる体制を構築する必要があります。
- ・県内には、全国レベルの技術に触れる機会が不足していることから、強化環境の充実に努める必要があります。
- ・組織として運営体制の強化を図るため、運営財源の確保が必要です。

(2) 今後の対策

- ・国スポで全種別安定的に入賞できるよう、愛媛 FC、FC 今治からの協力を得ながら、県内リーグ戦のレベルアップとトレセン活動の充実に努めます。
- ・指導能力・実績の高い若手指導者を養成・確保し、継続した強化ができる体制を整えます。
- ・中・高生の全国大会の誘致をはじめ、県外優秀チームや海外チームの合宿誘致に取り組めます。
- ・サポート会員（活動支援する個人や企業）制度を新設し、財源安定化を図ります。

No.4 愛媛県テニス協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・少年男子は、競技力向上が見られるものの、今後、国スポ等で安定して上位進出を果たすため、練習環境の整備と指導者の更なる資質向上が必要です。
- ・少年女子は、高校進学を機に選手の県外流出がみられることから、小学校から高校までの一貫指導体制の充実に努めます。
- ・成年男子は、更に有力プロ選手が国スポへ多数出場することが予想されるため、継続的な有力選手の確保が必要です。
- ・成年女子の国スポは、実業団選手及びプロ選手が多数出場しており、入賞を果たすため、競技力向上を行う環境整備と指導者の確保が必要です。

(2) 今後の対策

- ・少年男子は、国内トップコーチの招へい等により県内指導者のスキルアップを図るとともに、実業団及び強豪チームとの連携を図ります。
- ・少年女子は、愛媛トレセンの充実に努め一貫指導体制を強化するとともに、国スポ強化指定校制度の活用により、有望選手の県外流出を防ぎます。
- ・成年男子は、伊予銀行テニス部の強化を継続させ、有力選手獲得と育成に努めます。
- ・成年女子は、ふるさと選手のサポート体制を充実させるとともに、県内企業の実業団チーム設立に、県協会と連携して環境整備を進めます。

No.5 愛媛県ローイング協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・ジュニア世代の競技人口が減少していることから、子供たちに興味・関心を持ってもらえる取組みが必要です。
- ・国スポにおいて、全種別で安定的に上位入賞し、競技別総合優勝できる人材の確保が必要です。
- ・国スポ出場のための監督やコーチが不足していることから、資格を有した指導者の養成・確保が必要です。

(2) 今後の対策

- ・「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」とも連携を図り、体験教室などによる普及活動を実施します。
- ・少年種別は、高体連と連携を図り、インターハイでの入賞を目指し、県内合同強化合宿や遠征を実施します。
- ・成年種別は、一層の強化を図るため、地元実業団・大学及び県外実業団・大学に就職・進学したふるさと選手との連携を強化します。
- ・県内で指導者講習会を実施し、新たな指導者の発掘に努めるとともに、公認審判員及び公認スポーツ指導者の資格取得をサポートします。

No.6 愛媛県ホッケー協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・小学校から高校、大学まで競技継続する選手は育っているが、帰郷後に受け皿となる環境を整備する必要があります。
- ・種別間の交流が希薄で、成年選手が少年選手にアドバイスする機会が少ないため、交流機会（合同練習等）を確保する必要があります。
- ・近年、ジュニア（スポーツ少年団）の人数が急激に増えたため、指導者を確保する必要があります。

(2) 今後の対策

- ・成年選手の受け皿となる社会人チームの活動を充実させ、競技力の向上を図り、各カテゴリーで全国大会出場、入賞を目指します。
- ・地域で選手を育成するために、ジュニアから成年までの交流を活性化させ、より高い競技力向上を図り、強豪大学やクラブチームで活躍できる人材を育成します。
- ・大学生や社会人が卒業等で帰郷後に、成年選手で活躍するとともに、指導者として、選手時に培った高い技術や経験を若い選手に伝え、更なる人材の育成を図り、強豪県と呼ばれるチーム作りを行います。

No.7 愛媛県ボクシング連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年選手が大学卒業後も競技継続する選手が増加しており、選手や指導者として活動できる環境整備が必要です。
- ・少年種別においては、全国的に競技レベルが向上していることに加え、強豪県の選手は国際大会においても活躍しており、強豪県や強豪大学との連携が必要です。
- ・ジュニア選手の県外流出を防ぐために、本県に貢献したいという機運の醸成を図ることが必要です。

(2) 今後の対策

- ・成年選手が選手活動を継続できるよう、企業との連携や県や各市町村とネットワークの強化を図ります。
- ・少年種別の強化については、強豪県への遠征のほか、強豪大学との連携強化を図り、最新の情報を収集するなど、戦力分析を行います。
- ・ジュニア選手の育成については、高校生との合同練習を通じて少年種別以降の競技継続をサポートし、帰属意識を高めます。

No.8 愛媛県バレーボール協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・2027年度からの法人化を目指して、これまでに経験のない様々な問題点を洗い出し、解決していく必要があります。
- ・成年男女チームの競技力の持続性を高めるため、核となる社会人チームの強化が必要です。
- ・少年男女とビーチバレーボール少年男女のブロック突破及び本大会入賞のため、さらなる競技力の向上が必要です。
- ・中学のクラブ化を推進し、都道府県中学対抗の県代表強化が国スポ少年種別強化へ円滑に繋げる必要があります。

(2) 今後の対策

- ・中央競技団体の指導を受けながら、法人化に向けて情報収集を行うなど、円滑な移行に取り組みます。
- ・成年クラブである愛媛クラブや CLUB EHIME の競技力を高めるために、県出身大学生がチームに加入しやすいように環境を整え、支援します。
- ・国内トップレベルの選手の輩出を目指し、県高体連専門部や県ビーチバレー連盟と連携しつつチーム作りの時期を早めるなど、強化体制の更なる充実に努めます。
- ・中学のクラブ化を支援し、指導者の資質向上に努めるとともに、選手の県内高校進学を促進します。

No.9 愛媛県体操協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年種別において、大学卒業後も、更に高いレベルで競技に向き合える環境づくりが必要です。
- ・競技人口の減少が進む中、競技の魅力をアピールし、まずは興味を持ってもらう環境づくりや普及活動の必要があります。
- ・指導・審判等質を高めるため、有資格者の確保が必要です。
- ・フェアリーJAPAN メンバーや全国トップクラスの選手が育っており、今後も幼少期からジュニア年代・高校・大学まで、長いスパンで競技に向き合える選手層の拡充が必要です。

(2) 今後の対策

- ・ジュニアから成年までが「チームえひめ」として発掘・育成・強化を図るため、安全な器具の整備・活動場所の確保を行います。
- ・本県ゆかりの選手が国スポの選手として活躍できるよう日本体操協会 U-12 選手育成プログラムを通して、選手の発掘・育成・強化を図ります。
- ・効果的な選手の育成を図るため、指導員資格の取得や審判員の育成、資質向上のための研修・講習を継続して行います。
- ・トップコーチの指導により指導者育成や選手の競技力向上を図るとともに、普及活動を計画的に実施します。

No.10 一般社団法人愛媛県バスケットボール協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年男子及び少年男子は、四国ブロックで厳しい戦いを強いられているため、競技力を高める必要があります。
- ・少子化や価値観の多様化等の要因により選手の人数が揃わず、活動休止に至るチームも現れているため、育成年代の競技者数の確保が急務となっています。
- ・指導内容の高度化や資格取得の制度化等の環境変化に伴い、指導力の低下が危惧されるため、高い指導力を有する指導者の確保・育成が必要です。
- ・競技の普及・発展、選手の育成・強化、社会情勢への対応等、多くの役割を果たすため、人的・財政的基盤の整備が必要です。

(2) 今後の対策

- ・協会内で各種別の強化計画を精査し、より一層、効果的・効率的な事業遂行に努めます。
- ・ジュニア競技者の掘り起こし、各カテゴリーの競技環境の再整備、積極的な情報発信に取り組むことで競技者数の維持・拡大を図ります。
- ・新たな指導者としての人材を発掘するとともに、多様なニーズへの対応を目指した養成システムの構築により、指導者の育成と指導力の向上を図ります。
- ・外部人材の登用、自主財源の確保等に努めながら、アンダーカテゴリー・大学・社会人等の連携を強化し、実行力・機動力を備えた組織の構築に取り組みます。

No.11 愛媛県レスリング協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・少年種別は、「チームえひめ」として、県内合同強化練習、県外遠征を重ね経験を積むことが必要です。
- ・成年種別においては、各所属大学を拠点に強化を進める必要があります。
- ・指導者の資質向上のため、高い知識や戦術などを学ぶ必要があります。
- ・ジュニア選手の発掘、育成など底辺拡大が必要です。

(2) 今後の対策

- ・アドバイザーコーチやトップコーチを招へいして高い専門技能、戦術の修得を図ります。
- ・各所属大学との連携を密にし、選手の強化状況を常に把握し、各所属と協力し強化を継続するとともに、県外の有望選手を招へいするなど、県内強化練習の充実を図ります。
- ・アドバイザーコーチやトップコーチを招へいして県内で指導者講習会を実施し、指導者の資質向上を行います。
- ・オリンピック選手等を県内に招へいしての体験活動やチラシやSNSを活用しての普及活動を行います。

No.12 愛媛県セーリング連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年種別は、練習拠点の確保及び県内大学生の競技力向上を図る必要があります。
- ・少年成年種別ともに女子選手が少なく、競技人口を拡大する必要があります。
- ・指導者の人数が少なく、交代要員がないため、負担が大きいのが課題です。
- ・連盟の限られたスタッフが普及や育成、強化、財務、事務局を兼任しているためガバナンス体制の強化が必要です。

(2) 今後の対策

- ・成年種別は、愛媛大学と松山大学ヨット部の活動を活性化するために、活動拠点を堀江海岸に移し、大学間の合同練習などを実施します。
- ・少年種別は、あらゆる環境での実践力や対応力を高めるために、アドバイザーコーチ事業を活用して、定期的に強化練習会や遠征を実施します。
- ・女子選手については、普及活動を継続的に実施し、特にスポーツ専門員制度を活用するなど、選手の増加に努めます。
- ・指導スタッフの増員及びコーチボートの増強を図り、艇種ごとに指導体制を確立します。
- ・2024年度にNPO法人化して、ガバナンスの強化を行い、現場と事務を分業し運営体制の強化を図ります。

No.13 愛媛県ウエイトリフティング協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・ジュニア世代の発掘・育成については、新居浜市のみで練習しているため、活動拠点を拡充する必要があります。
- ・より一層の強化を図るため、若手指導者を確保する必要があります。
- ・近年、少年男子の高校年代で全国トップレベルの成績を収める選手が出ておらず、次世代成年有力選手を育成する必要があります。

(2) 今後の対策

- ・新居浜市の小中学校への体験教室等を継続的に実施して普及を図るとともに、より多くの選手を発掘、育成するために、「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」を活用し、松山市で活動できるよう指導者の配置を進めます。
- ・大学生や社会人が帰郷後に、選手や指導者として後進を育てる環境を整備します。
- ・次世代成年有力選手については、一貫指導により高校まで競技を継続させ、トップクラスの選手を育成し、強豪大学への進学をサポートします。

No.14 愛媛県ハンドボール協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・四国ブロック大会を突破できず、国体で得点が獲得できていないため、全種別でより効果的な強化が必要です。
- ・成年選手が減少し、チームの年齢層が上がっているため、ふるさと選手を含め、より幅広く選手を集めていくことが必要です。
- ・少年男子については、母体となるチームが無いことから、チーム組織を整備する必要があります。
- ・ネクストエイジ世代を指導することができる専門的な指導者の確保が必要です。

(2) 今後の対策

- ・県外遠征や強豪チームとの練習機会を増やし、チームとしての連携や士気を高めます。
- ・成年女子は、ジュニアから成年まで地域で選手を育て、中・長期的なプランで強化を図ります。
- ・少年男子については、早期にチーム編成を行い、県外チームとの交流試合を行うなど、年間を通して計画的に強化することが必要です。
- ・ジュニア指導者については、コーチ資格の取得や指導者講習会などの機会を設けます。

No.15 愛媛県自転車競技連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年種別の競技力維持、向上のためには競技人口の拡大が必要です。
- ・少年種別は、引き続き高い競技力を維持し、更なる向上を目指すための取組みが必要です。
- ・競技力の一層の向上のため、県内高校生アスリートの発掘、育成が必要です。
- ・女子選手はあらゆる世代で人員が不足しており、競技人口の拡大が必要です。

(2) 今後の対策

- ・県外流入選手が大学進学後もふるさと選手として活動できるよう競技継続をサポートする必要があります。
- ・指導者の資質向上のため、対外的な視察・研修を充実し、情報の収集を図ります。
- ・ジュニアクラブの活動を充実させるとともに、「えひめ愛顔ジュニアアスリート発掘事業」を活用し、県内小中学生の競技人口の確保と質の向上を図ります。
- ・女子選手対象の勧誘、啓発活動に取り組みます。

No.16 愛媛県ソフトテニス連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・近年、国体において得点を獲得することができていないため、1種別以上の入賞を目指して、県全体の競技力のレベルアップが必要です。
- ・全種別において、競技人口が減少傾向にあり、特に女子選手は、高校卒業後に競技から離れ、選手層が薄くなる傾向があることから対策が必要です。
- ・中学生の運動部活動の地域移行に伴い、ネクストエイジ種別における指導者の確保・育成が必要です。

(2) 今後の対策

- ・全国トップレベルの選手と交流を行うとともに、県内においても、選手、指導者間で、積極的にコミュニケーションをとりながら強化を図ります。
- ・ジュニア・中学生を対象に、高校生との強化事業や体験教室などのイベントを開催するとともに、女子選手の種別間交流を通して、競技継続をサポートします。
- ・有望な指導者の発掘、育成を図るため、指導者対象のライセンス講習会を行います。

No.17 一般社団法人愛媛県卓球協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年は、県外有力選手の獲得や本県出身選手の成長により、国体において安定して入賞をしているが、上位入賞や優勝に向けてより高い競技力が必要です。
- ・少年は、有望選手の県外流出もあり、競技レベルの低下は否めず、全国大会での好成績、ブロック突破を果たすためには練習環境の改善が必要です。
- ・小学生や就学前児童に対する講習会や体験教室等を実施し、競技の普及、選手の発掘に努めているものの、目に見える成果には至っておらず、さらなる工夫が必要です。

(2) 今後の対策

- ・成年種別は、日本リーグ所属の実業団チームにおける有力選手の更なる獲得のほか、県外有力校に進学した本県出身選手がふるさと選手として出場することできるよう、引き続き情報収集やサポートを行います。
- ・レベルの高い県外の卓球協会や学校・チームとの定期的な交流や、小・中・高生合同の県内強化練習会を積極的に実施することで全体のレベルアップを図ります。
- ・講習会や体験教室においてクラブ等指導者との連携を深めることにより、効果的な競技普及、選手発掘に繋がります。
- ・部活の地域移行を注視しながら、指導者に対する講習の機会を増やし、育成及び資質向上を図ります。

No.18 一般社団法人愛媛県軟式野球連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・野球人口の減少が進む中、競技レベルも低下傾向にあり、四国ブロック大会を突破するためには、より効果的な競技力の向上を図る必要があります。
- ・中学校部活動の地域移行に伴い、資格を有した指導者の確保が必要です。
- ・財源の確保（県連及び県内支部の在り方）の見直しも含め、連盟ガバナンス体制の強化が必要です。

(2) 今後の対策

- ・自治体の理解や協力体制（人的・財政的支援）のもと、継続的な強化チーム指定による強化事業に取り組みます。
- ・小学校以下の児童に対する体験教室や啓発活動を行います。
- ・JSPO 公認指導者資格取得を促進に努めます。
- ・登録料や大会参加料の適正化を検討し、財政の健全化に努めるとともに、役員改選において、女性役員の登用やアスリート枠を設けることで、サステナブルな組織運営（人材の確保・役員の育成・役員待遇の改善）に取り組みます。

No.19 愛媛県相撲連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・少年は、鹿児島国体優勝を果たしたものの、競技力が低下することが予想されるため、全体的な底上げが必要です。
- ・少年、成年と継続して成果を出すためには、ジュニア選手からの発掘及び育成・強化を行う必要があります。
- ・成年は、主力選手が競技引退等で選手層が薄くなっており、有力選手の確保を図りつつ、一層の強化に取り組む必要があります。

(2) 今後の対策

- ・少年は、柱となる選手を中心に、積極的に強化練習や県外遠征等を行い、個々の競技力向上とチーム力の底上げを図ります。
- ・ネクストエイジ選手が少年種別で活躍できるよう、連盟指導者が積極的に関わりながら、育成・強化に努めます。
- ・成年は、ふるさと選手を活用して選手層の充実を図るとともに、県内及び大学生選手との競争意識を高めてレベルアップを図ります。
- ・鹿児島国体優勝選手が大学へ進学することから、成年での優勝を目標に5か年計画で強化を図ります。

No.20 愛媛県馬術連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・県内大会が開催できず、県外大会に参加せざるを得ないため、国スポで成果を出せるように、大会経験を多く積むことが必要です。
- ・えひめ国体から6年が過ぎ、高齢となり競技に出場できなくなった馬が多数いるため、有効な活用方法を考えるとともに、新たに馬を揃えることが必要です。
- ・県内には、競技会を想定した障害を設置して練習できる場所の確保が困難であるため、練習環境の整備が必要です。
- ・練習環境が整っていないことも要因となり、進学を機に県外に流出する選手もいるため、選手の確保が必要です。

(2) 今後の対策

- ・強化選手を指定して、県外大会を多く経験できるように計画を立てて遂行します。
- ・高齢となった馬は初心者の練習用として利用するとともに、競技馬の購入が難しい場合は、個人所有馬とレンタル競技馬を併用して大会出場します。
- ・県内の乗馬クラブに協力を得ながら、経費を抑えて練習環境を整備するとともに、近隣県で開催される合同練習会に積極的に参加します。
- ・県内での競技継続をサポートするとともに、ふるさと選手として国スポに出場してもらえよう、本県出身選手との情報共有を密にします。

No.21 愛媛県フェンシング協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・男女ともに競技人口が減少傾向の中、選手の発掘をはじめ、四国ブロック予選を全種別（3種別）突破するために、効果的な強化を行う必要があります。
- ・県内の指導者が不足しているため、新たな指導者の発掘・育成が必要です。
- ・国スポでの上位入賞を目指すためにも、全世代での3種目の育成強化が必要です。
- ・国スポでの上位入賞を目指すために、特にジュニア世代でのフルール強化が重要で、指導人材の確保が必要です。

(2) 今後の対策

- ・松山地区は、「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」との連携を継続するとともに、松山ジュニアフェンシングクラブ、愛媛フェンシングクラブの選手発掘を行い、ジュニアから高校までの強化を一元化します。
- ・四国中央地区は、三島フェンシングクラブを中心とした選手発掘及び育成強化を行い、市と連携し選手発掘と同時に、PR広報やアスリート発掘事業を行います。
- ・松山地区は、サーブル種目で全国大会において好成績を出し日本代表にも選出されており、更なる成績向上、日本フル代表、オリンピック選手輩出を目指すために指導者を配置します。
- ・四国中央地区は、優れた実績を有し、常時指導できる指導者を配置します。

No.22 一般財団法人愛媛県柔道協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年男子及び女子では、有力なふるさと選手を活用したチーム編成が鍵となっており、チームの一体感の醸成が必要です。
- ・少年男子の軽量級選手は比較的充実しているが、有力選手が高校から県外に流出していることがあり、中量級以上で核になる選手の確保・育成が必要です。
- ・令和4年度より資質向上委員会を発足し、研修会を行っているが参加者が低調であり、意識の高揚が必要です。
- ・ジュニア選手の発掘・育成を図るため、強化委員の役割を明確にし、競技の魅力を広く普及啓発する必要があります。

(2) 今後の対策

- ・有力選手の所属先と連携しつつ協力体制を構築し、ふるさと選手の確保に努めるとともに、コミュニケーションを積極的に図り、チーム力の向上を図ります。
- ・小中高との連携を図り、地元の高校柔道の魅力向上と情報発信を積極的に行い、特に中量級以上の人材流出に歯止めをかけます。
- ・指導者研修会の内容を充実させ、時代の変化にあわせた指導への転換を促します。研修会の周知に工夫を凝らし、参加者の増加に努めます。
- ・「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」との連携を図り、選手の発掘に努めるとともに、未経験者への体験機会の充実を図ります。

No.23 愛媛県ソフトボール協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年種別は、常に国スポで入賞を狙えるチーム作りを行っていく必要があります。
- ・少年種別は、県内出身の有力な選手の県外流出を防ぎ、各チームが魅力的な取り組みを行い、切磋琢磨する必要があります。
- ・近年、競技人口の減少が顕著で、特に女子ジュニア選手の発掘が必要です。
- ・中予地区での強化練習会や大会等の開催が多いのが現状であり、県全体で競技力向上に取り組む必要があります。

(2) 今後の対策

- ・若手選手を積極的に起用し、チーム全体の競技力の底上げを図るとともに、県外出身有力選手の獲得に向け、情報収集を行います。
- ・指導者講習会等を実施し、指導者の資質向上を図るとともに、早期に少年種別の選抜チームを立ち上げ、「チームえひめ」で国スポに臨む機運醸成に努めます。
- ・小学生対象のクリニック等を計画的に行い、ジュニア選手の普及・育成に努め、競技人口の拡大を図ります。
- ・東・南予地区での強化事業を増やし、県全体でソフトボールを支えます。

No.24 愛媛県バドミントン協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・ネクストエイジは、関係団体等との連携を図り、選手の発掘・育成に取り組む必要があります。
- ・少年女子は、全国で戦い抜くために筋力、持久力などを向上させるとともに、競技に特化した効果的な体の使い方を習得する必要があります。
- ・少年男子は、体力・ラリー数・配球の厳しさなど、全国トップの水準を選手が知る必要があります。
- ・成年女子は、大学生中心の編成のため、より多くの試合経験が必要です。
- ・成年男子は、引退を考えている選手もおり、次世代育成が必要になります。

(2) 今後の対策

- ・ネクストエイジは、協会、中体連、クラブチームが三位一体の取り組みを進め、普及啓発等を通じて、競技人口の拡大に努めます。
- ・少年女子は、更なる実戦経験を積むために、実業団トップチームとの合同練習会を行います。
- ・少年男子は、強化練習会等にナショナルチームのコーチなど、全国トップレベルの指導者を招聘するとともに、ジュニア選手とスパーリングする機会を設けます。
- ・成年女子は、実業団や大学へ遠征を増やし、多くの経験を積むことに努めます。
- ・成年男子は、ベテラン選手が主となり編成されているが、高校、大学の次世代選手にも世界及び日本のトップレベルを経験させて育成します。

No.25 愛媛県弓道連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・少年種別は、競技者の経験不足が結果に反映されており、確実に射貫く技術力と、様々な場面で勝ち切る経験を積む必要があります。
- ・限られた人材で指導を続けていることから、経験のある指導者（特に遠的の指導が可能な人材）を発掘、育成する必要があります。
- ・高校の弓道施設を含め、練習環境の整備が十分ではないため、安定して練習できる場所の確保が必要です。

(2) 今後の対策

- ・少年種別は、高校で弓道始める生徒がほとんどであり、主に部活動顧問が指導しているため、指導力向上に向けて、連盟、高体連が連携した強化練習会や県外遠征を実施します。
- ・遠的・近的競技ともに4位入賞以上を目標に、公認スポーツ指導者資格取得も含めて指導者講習会を実施し、監督（指導者）の発掘、育成を図ります。
- ・競技力向上及び普及、並びに、選手の競技継続に向けて、練習施設の環境整備に努めます。

No.26 愛媛県ライフル射撃協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年のライフル種目は、男子選手の高齢化に加え、新しい選手が非常に少ないため、選手を確保して若返りを図る必要があります。
- ・成年の競技継続及び強化を図るため、県内での練習場所の確保と選手の強化に対する継続的なサポートが必要です。
- ・少年は、男女ともに選手が充実しており、全国レベルであるが、今後選手数が減少傾向であるため更なる選手層の発掘が必要です。
- ・ライフル・ピストル種目ともに指導者の層が薄く、確保が急務です。

(2) 今後の対策

- ・大学進学や県外就職をした選手の強化状況を把握し、継続したサポートをおこなうとともに、警察からも有望な選手を発掘します。
- ・県内選手が負担なく強化できる環境づくりのため、伊予農業高校射撃場の使用制限の緩和や県補助金を活用した強化支援を県と連携して進めます。
- ・少年は、強化拠点校をはじめ、ジュニアアスリートやネクストエイジ事業による選手の発掘・育成・強化を実施し、日本代表レベルの選手を継続して育成します。
- ・部活動に外部コーチを継続的に招へいして効果的な指導を行うとともに、指導者の資質向上と、将来、指導者や教員を目指す人材の発掘に努めます。

No.27 一般社団法人愛媛県剣道連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・国スポにおいて最低1種別は入賞できるよう、より効果的な強化が必要です。
- ・成年女子は、中堅(30歳代)、大将(40歳代)の選手層が薄くなる傾向があるため、選手の発掘が必要です。
- ・少年男女は、各高校の主力を集結させた選抜チームで編成されることから、選手同士の交流を深め、チーム力を高めることが必要です。
- ・小学生の競技人口の減少が進行していることから、新たな選手の発掘が必要です。

(2) 今後の対策

- ・国スポにおいて、入賞ができるよう競技専属アドバイザーはじめ高い指導力を有する指導者を招へいし、全種別で強化練習会を積極的に実施し、競技力向上に努めます。
- ・成年女子は、定期的に「女子稽古会」を開催し、競技力の維持、向上に努めるとともに、女性が剣道を続けやすい環境整備に努めます。
- ・少年男女は、早期に選手選考を行い、自覚を持たせるとともに、県内強化練習や県外遠征を積極的に行い、確実にブロック突破を果たし、国スポでの入賞を目指します。
- ・連盟主導で体験教室などを行い、競技人口の拡大を図ります。

No.28 愛媛県ラグビーフットボール協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年男子及び少年男子は、四国ブロック大会で一進一退の攻防が続いているため、競技力を高め、ブロック突破を確実にする必要があります。
- ・成年男子は、社会人及び大学生選手の融合チームとなるため、選手の世代交代のサポートが必要です。
- ・女子は、競技人口が減少傾向にあり、新たな競技者の発掘が必要です。
- ・指導者が減少しているため、新たな育成が必要です。
- ・スクールからジュニア、そして少年、女子へと競技力を高めていくために、部活動の社会体育化が今後どうなっていくのか動向を捉える必要があります。

(2) 今後の対策

- ・成年男子は、定期的な強化練習に加え、遠征により実践力を向上させるとともに、大学卒業後のリターン就職や、地元就職した選手の発掘を行います。
- ・少年男子は、新人戦優勝校を中心に愛媛選抜を編成し、チームの練度を上げます。
- ・女子は、生活基盤が地元にある選手を育成するほか、中学生からのジュニア選手の発掘、育成に積極的に取り組み、長期的なビジョンで競技人口の拡大を図ります。
- ・指導者に資格取得を推奨し、指導体制の充実を図ります。
- ・社会体育化へ対応するために、活動拠点となる練習環境の確保に努めます。

No.29 愛媛県山岳・スノークライミング連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・全ての種別で選手層が薄く、選手の発掘、育成、強化の好循環を確立することが必要です。
- ・成年男子は、国スポ上位入賞を果たすため、レベルの高い大会への参加等により経験値を上げることが必要です。
- ・指導者の確保及び資質向上が必要です。

(2) 今後の対策

- ・「えひめジュニアクライミングクラブ」の活動を充実させ、ネクストエイジ選手を発掘するとともに、「国スポ高校強化指定校」と連携を図り、少年種別の育成に取り組めます。
- ・少年種別は、スポーツ専門員による指導を通して、県全体のレベルアップを図るとともに、有望選手には、更なる競技力向上のため、ユース選手権等の全国レベルの大会へ積極的に派遣します。
- ・成年男子は、有望選手を各種大会等に積極的に派遣するとともに、成年女子は、優れたスポーツ専門員の獲得に努めます。
- ・指導者の養成・確保を図るため、JSPO 公認コーチ資格の取得や、各種セミナー等へ指導者を積極的に派遣します。

No.30 愛媛県カヌー協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・競技力向上のために、指導者の養成・確保が必要です。
- ・選手の発掘・育成・強化に継続して取り組む必要があります。
- ・競技人口の増加を図る必要があります。
- ・競技力の維持向上、競技普及のため、カヌー艇庫、スラローム練習場の確保と、練習環境の一層の整備を図る必要があります。

(2) 今後の対策

- ・「常勝愛媛」の伝統を継承するためには、優れた指導人材が不可欠であることから、指導者講習会等を通じた資格取得者の確保をはじめ、選手引退後、指導者として活躍できる環境作りと世代間で途切れることのない指導体制の確立に取り組めます。
- ・部活動の地域移行に伴い、各クラブ（地域）・学校・県協会が連携し、競技人口の拡大に努めるとともに、各種目・種別の選手が継続して活動できる環境作りに取り組めます。
- ・カヌー艇庫の確保について、引き続き関係機関と協議を進めるとともに、練習場の河床掘削整備、県内におけるスラローム練習場の適地確保の働き掛けを行います。

No.31 愛媛県アーチェリー協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年種別は、大学卒業後も競技を継続できる受け皿作り及び高校生の強豪大学への進学をサポートする必要があります。
- ・少年種別は、競技人口の減少が進んでいるため、普及活動や競技力向上に新たな取組みが必要です。
- ・ナショナルチーム選手など、トップ選手を指導できる指導者が必要です。
- ・高校の部活動に専門知識を持った指導者を確保する必要があります。

(2) 今後の対策

- ・成年種別は、チームを編成の上、定期的な練習会と大会参加を実施し、お互いを刺激し合える環境を整備するとともに、選手層に厚みを持たせるため、少年種別選手の大学での競技継続を促します。
- ・少年種別は、体験会で有望小学生選手の発掘を図り、県内での公認大会を増やし、全国大会へ多くの選手の出場を目指します。
- ・指導者の資質向上のため講習会への参加や、実績のあるトップコーチの指導法を学ぶ機会を作ります。
- ・高校部活動に、トップコーチを招へいし、コーチングの勉強機会を作るなど、部活動顧問の指導力向上に取り組めます。

No.32 愛媛県空手道連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年種別は、近年得点獲得ができておらず、高校卒業後、継続して空手道に取り組む学生が減少していることから、選手の確保・育成が必要です。
- ・会員数の伸び悩みにより、競争力が低下していることから、効果的な競技力向上を図る必要があります。
- ・中学以降の競技離れを防ぎ、ジュニア層の選手が継続して活動・活躍できる環境づくりを行う必要があります。
- ・えひめ国体で活躍した選手が指導者となって選手の育成に努めているものの、より充実した指導を行うためにも指導者の確保・資質向上が必要です。

(2) 今後の対策

- ・県内選手に対し、強豪大学進学をサポートや大学卒業後も競技継続ができる環境を整備するとともに、スポーツ専門員制度を活用して実績のある選手の獲得に努めます。
- ・競技力向上を図るため、県外遠征をはじめ、アドバイザーコーチや優秀チームを招へいするなど、強化事業を積極的に実施します。
- ・中体連への加盟を目指して活動を行っており、中学入学以降の活動及び大会参加をサポートします。
- ・実績のある指導者を中心に、高校や道場での指導を継続して行うとともに、将来指導者や教員を目指す選手を育成します。

No.33 愛媛県銃剣道連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・ネクストエイジ育成強化事業の参加数が減少しているため、ジュニア選手の競技人材を確保する必要があります。
- ・少年の競技人口は国スポ強化指定拠点校である東温高校を中心に継続して確保できているが、まだ不足しているため、選手の発掘に取り組む必要があります。
- ・成年の練習拠点となる松山自衛隊の部隊改変に伴い、練習機会が減少する可能性があるため、競技力向上を図るための働きかけが必要です。
- ・現存の指導者の資質向上と、新たな指導者の確保が必要です。

(2) 今後の対策

- ・体験教室を積極的に実施し、小・中学生の勧誘活動を行います。
- ・少年選手の確保においては、東温高校の新入生勧誘に加えて、連盟からも東温高校にアプローチして部員確保に努めます。
- ・松山自衛隊の部隊に対し、連盟から練習時間の確保を依頼するとともに、公共の体育館や小・中学校の体育館、公民館等に協力を依頼し、練習環境を確保します。
- ・これまで以上にアドバイザー事業を実施するとともに、松山自衛隊と東温高校が連携して指導者の育成を図ります。

No.34 愛媛県クレ射撃協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・競技人口が若干増加したが、今後更なる選手の発掘、育成をする必要があります。
- ・将来的に国スポに女性を出場させることが必要条件となることから、女性選手の確保の必要があります。
- ・スキート及びトラップともに国スポで入賞を果たすため、競技力を高める必要があります。
- ・県選手団が一堂に会し、県外遠征等に参加する機会が少ないため、今後、機会創出を図る必要があります。
- ・指導的役割を担える人材が少ないため、今後、増加させる必要があります。

(2) 今後の対策

- ・強化選手に加え、一般会員にも練習会及び大会等の案内を行い、競技に親しむ機会の創出に努めます。
- ・国スポで活躍できる選手の育成を図るため、女性選手を中心に練習会を行います。
- ・アドバイザーコーチ事業等を活用し、スキルアップを図ります。
- ・競技力向上を図るため、県外で開催される公式大会等に積極的に参加し、協会員の意識高揚に努めます。
- ・指導者講習会等に積極的に参加し、優れた指導者の確保に努めます。

No.35 愛媛県なぎなた連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・成年種別において、所作の熟練具合が勝敗の決め手となることがあるため、経験を積み上げていく必要があります。
- ・県立学校振興計画に基づき、学校部活動の実施に向け取り組むことが必要です。
- ・近年、県内の競技人口が激減しているため、増加を図り、県内選手同士で切磋琢磨できる環境が必要です。
- ・競技人口減少に伴い、指導者数の不足も顕著になっており、指導者の量や質を高める取組が必要です。

(2) 今後の対策

- ・県内練習会を定期的実施するとともに、県外遠征の実施回数を増やし、技術・知識を習得し、試合勘を高め、各種大会で上位入賞を目指します。
- ・県と連携し、学校部活動実施校の新設及び練習会場等の開拓に努め、学校単位で競技力向上を図るとともに、県内合同練習会や県外遠征を定期的実施します。
- ・小学生対象の体験教室の開催し、なぎなたの魅力や楽しさを伝え、ジュニア選手の発掘・育成に取組み、計画的に競技人口の拡大を図ります。
- ・中学校武道必修化を活用し、連盟が関わる体験授業ができるよう取り組みます。
- ・成年選手を対象に指導者育成講座等を開催し、新たな指導者の発掘に努めます。

No.36 愛媛県ボウリング連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・老朽化等で閉鎖するボウリング場もあり、活動場所が限定される中、国スポへの出場を目指す選手の練習環境の確保が必要です。
- ・連盟役員の高齢化が進んでいるため、連盟の組織体制の整備が必要です。
- ・鹿児島国体は、8種目で出場したが、入賞できなかったため、1種目以上は入賞できるように競技力向上が必要です。
- ・会員数の確保とジュニア選手の発掘、育成が必要です。

(2) 今後の対策

- ・既存施設を利用しやすくするため、イベント等の競技会を実施し、連盟と施設が協力して国スポの関連選手への優遇制度を導入します。
- ・指導者の資格取得を促進するとともに、連盟役員が積極的に国スポ選手や会員に関わることで、連盟への協力者を増やします。
- ・強化練習を計画的に実施し、プロである川添アドバイザーコーチから指導を受けることで、技術面及びメンタル面の徹底的な強化を図ります。
- ・新規会員の勧誘や継続会員の登録を働きかけ、魅力ある競技団体を目指すとともに、ジュニア選手の育成を重点的に行い、社会人になっても競技を続けていける環境づくりに努めます。

No.37 愛媛県ゴルフ協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・少年男子はブロック突破、成年男子及び女子は入賞を目標とした、競技力向上が必要です。
- ・将来的に地域の競技人口を拡大するため、女子選手、ジュニア選手、ミドル選手の確保が必要です。
- ・ミドル・シニアの選手層に比べ、ジュニア選手層が脆弱なため、ネクストエイジ世代を含め、将来有望なジュニア選手の育成・強化が必要です。

(2) 今後の対策

- ・国スポ候補選手の合同練習会を積極的に行うとともに、国内外を含めた交流試合を計画し、高いレベルの経験を積む機会を作ります。
- ・ふるさと選手制度の活用を図るため、候補選手との競技会や研修会等の交流機会を増やします。
- ・協会が主催する競技会への参加を促進することに加え、初心者を対象にした体験教室等を実施するなど競技会参加者を増やすとともに、将来を見据え、各種・各層の選手の掘り起こしを進めます。
- ・ジュニアの育成を図るため、研修会の回数を増やすなど、ネクストエイジ育成強化事業を積極的に活用します。

No.38 愛媛県スキー連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・会員数は微減に留まっているが、競技者、特にジュニア層（小学生）の競技者数の減少が著しいため、選手の発掘、育成を図る必要があります。
- ・オフシーズンのモチベーションの維持、スキーパフォーマンスの向上のための強化練習を充実させる必要があります。
- ・日本スポーツ協会や全日本スキー連盟において、国民スポーツ大会の新種目にスノーボードやモーグルの実施を検討しており、国スポ種目の変更を想定し、対応する必要があります。

(2) 今後の対策

- ・アルペン種目は、テレビ愛媛杯等のオープン参加の競技会を有効活用するとともに、クロスカントリー種目は、夏場のローラースキー体験教室等により選手確保に努めます。
- ・オフシーズンに、フィジカル面での定期的な強化練習会のほか、コーディネーショントレーニングやメンタルトレーニング等を実施します。
- ・本連盟はスノーボードにおいて、ハーフパイプでオリンピック選手、アルペン種目で全日本強化選手を輩出した実績があり、今後の動向に柔軟に対応できるように、スノーボードの強化にも粘り強く取り組みます。

No.39 愛媛県スケート連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・国スポにおいて、更なる得点の上積みを目指すため、有力選手やスポーツ専門員の獲得が必要です。
- ・国際大会や全国で活躍できる選手を輩出するため、選手のレベルアップが必要です。
- ・選手数の減少に伴い競技力も低下しているため、ジュニア選手の発掘と練習環境の確保が必要です。
- ・指導者等が減少し、選手管理が出来ていないため、優れた指導者の確保が必要です。
- ・各競技部の管理体制が不十分であるため、連盟の体制強化を図る必要があります。

(2) 今後の対策

- ・大学卒業後も競技継続できる環境やサポート体制を整えるとともに、積極的にスポーツ専門員獲得に向けた情報収集を行うなど、有力な選手確保に努めます。
- ・全国ランキング等を確認しながら目標設定を行い、選手と指導者間で情報共有を図りながら、個々に応じた練習メニューでの強化を図ります。
- ・体験教室や関係者の協力を得て選手勧誘を行うとともに、将来的にも練習場所が確保できるよう新スケートリンク設立へ向け活動を継続して行います。
- ・講習会や勉強会の開催、他チームとの合同練習を行う中で、指導者のモチベーションアップと指導力の向上を図ります。
- ・競技部間の連携を密にし、人材発掘をしながら、連盟の体制づくりを行います。

No.40 愛媛県アイスホッケー連盟の取組み

(1) 現状と課題

- ・2026年12月末で、本県唯一のアイスリンクが閉鎖するため、以降の氷上練習時間の確保、代替の練習環境が必要です。
- ・愛媛ではマイナーなスポーツであることに加え、コロナでジュニア世代の競技人口が減少していることから、新規の普及活動が必要です。
- ・コロナや転勤などにより指導者が不足しており、指導者の発掘、育成が必要です。
- ・試合数が少ないので、試合経験を増やす必要があります。

(2) 今後の対策

- ・県内アイスリンク設立のための活動を継続するとともに、インラインスケートやシンセティックアイスなどの代替練習環境の準備に取り組みます。
- ・他県のアイスリンクで、氷上練習の時間を確保できるよう交渉を行います。
- ・氷上体験会や大会誘致を積極的に行うとともに、氷上に限らず、フロアボールなどの体育館などでできる競技も導入することで、競技の普及、競技人口の拡大に努めます。
- ・指導人材の確保に向け、指導者向けのクリニックへの参加の動員、県内でのクリニック開催を行います。
- ・数多くの経験を積むため、他県との練習試合や大会参加を積極的に行います。

No.41 愛媛県トライアスロン協会の取組み

(1) 現状と課題

- ・本県はトライアスロン大会が充実しているため愛好家は多いが、競技者として国スポ出場、入賞を目指す選手層が薄いため、選手の意識改革と支援が必要です。
- ・選手の発掘・育成・強化が出来る場所や指導者など、環境の整備が必要です。
- ・現役で競技団体を支える役員とその後任者が連携し、強固な強化体制を構築する必要があります。

(2) 今後の対策

- ・実業団選手が競技の最先端をけん引していく中で、競技志向の高い選手が県代表候補選手としてより高いレベルで競技に取り組めるように支援していきます。
- ・ジュニア層の選手を県内だけにとどまらず中四国全体で連携を図り育成し、その中から育ってきた有望選手を実業団が強化するシステムの構築に努めます。
- ・現役員が構築してきたノウハウを適切な人材に継承し、継続的に発展できる運営・強化体制の構築に努めます。

3 おわりに

えひめ国体から6年が経過し、県競技力対策本部では、これまで国体レガシーを継承、発展させるべく、様々な競技力向上対策に取り組んで参りました。

その間、社会経済情勢は大きく変化し、それに伴い、我々を取り巻くスポーツ環境も新たな局面を迎えています。

今回の計画改訂にあたっては、特に次代を担う多くの子どもたちが競技スポーツに関わり、トップアスリートに成長することができるよう、地域の課題やニーズを踏まえ、将来を見据えた戦略的な施策に取り組むこととしております。

スポーツには、私たちに活力をもたらし、生活に潤いを与えてくれる力があり、特に本県選手の活躍は、多くの県民に大きな喜びと誇りを与え、郷土愛を育むことから、「スポーツ立県えひめ」の実現に向け、本県スポーツ関係者が一体となり、競技力向上対策に取り組んでいきます。